

日本監査役協会設立40周年記念

懸賞論文結果発表



懸賞論文入賞者表彰式（平成26年8月5日、於：メルパルク東京）

公益社団法人日本監査役協会は、設立40周年を記念して、「日本企業の将来とコーポレート・ガバナンスのあり方」をテーマに論文を募集いたしました（募集期間：平成26年1月23日～6月30日）。

その結果、学生から研究者、企業人の方々まで、幅広い層から計113編（社会人・一般の部105編、学生の部8編）のご応募をいただきました。ご協力いただきました皆様方には心より御礼申し上げます。

審査結果は以下のとおりです。最優秀論文は本号12～43頁に掲載しておりますので、是非ご覧ください（協会ホームページ<http://www.kansa.or.jp/>には、全受賞論文を掲載しております）。

審査委員

神田 秀樹 氏（東京大学大学院法学政治学研究科 教授）、小島 順彦 氏（三菱商事株式会社 取締役会長）、翁 百合 氏（株式会社日本総合研究所 副理事長）、小平 龍四郎 氏（日本経済新聞社 編集委員兼論説委員）、太田 順司（公益社団法人日本監査役協会 会長）

最優秀論文

社会人・一般の部

「社外取締役を含めた企業統治の在り方」

コスモ石油株式会社 常勤監査役 安藤 弘一 氏

学生の部

「日本企業の将来と コーポレート・ガバナンスのあり方」

— 会社法改正による新たな経営機構と一本化 —

早稲田大学 商学部 四年 井上 隆信 氏

佳作

社会人・一般の部

「日本企業の将来とコーポレート・ガバナンスのあり方」

～我が国の企業経営の特性や実質に照らした理論の再構築に向けて～

大阪ガス株式会社 監査役室長 柳 伸之介 氏

「日本企業のグローバル化と海外子会社に対するガバナンスの あり方について」

クロウホース・グローバルリスクコンサルティング株式会社 代表取締役社長 毛利 正人 氏

「社会基盤としての資本市場と企業の健全な発展に資する コーポレート・ガバナンスのあり方」

株式会社UMNファーマ 常勤監査役 高木 淳一 氏

学生の部

「日本企業復活へのカギはコーポレート・ガバナンスが握る」

東京理科大学 経営学部経営学科 三年 白石 彩華 氏／内堀 佑梨菜 氏



(後列) 右から小平審査委員、翁審査委員、
神田審査委員長、小島審査委員、
太田審査委員

(前列) 右から入賞者の白石氏、内堀氏、
井上氏、高木氏、毛利氏、柳氏

審査委員長 **神田 秀樹 氏**
(東京大学大学院法学政治学研究科 教授)



今回の懸賞論文のテーマである「日本企業の将来とコーポレート・ガバナンスのあり方」は、特に学生の方々にとって難しいのではないかと考えていました。時宜に適してはいるのですが、コーポレート・ガバナンスは簡単なテーマではありません。ところが結果としては、学生の方々からは意欲的で新鮮かつ多様な論文を応募いただき、社会人の方々からも、実務経験に根ざした多様な論文を応募いただきました。

懸賞論文の募集期間中に会社法の改正が成立し、6月27日に公布されました。ここ数年、機関投資家を中心とした資本市場からのコーポレート・ガバナンス向上への要請が顕著になってきたこともあり、日本企業のコーポレート・ガバナンスのあり方と社外取締役との関係などをめぐる議論が各界で多層的に行われてきました。応募論文を俯瞰しますと、日本の上場企業の機関設計の太宗を占める監査役制度の有効性を謳った上で、日本型経営を支えるコーポレート・ガバナンスのあり方を論じる論文が多かったといえますが、近時のさまざまな議論を反映し、独自の視点で昇華させようとする意欲に富む論文が多くみられたことが特徴といえます。

審査委員会では、必ずしもスムーズに結論に達したわけではなく、中には意見が分かれたこともありました。最終的には審査委員全員の意見が一致した次第です。

今回の受賞論文でも示唆されていますように、日本企業の将来を考えると、難しい選択が多々待ち受けているように思いますが、今回の受賞者の方々とともに、日本企業ひいては日本経済の将来の発展を祈りたいと思います。

最後に、このような難しいテーマにもかかわらず、今回積極的にご応募いただいた皆様に御礼を申し上げますとともに、お忙しい中審査いただいた審査委員の皆様、また今回の懸賞論文事業を円滑に企画・運営いただいた日本監査役協会の皆様に御礼申し上げます。

審査委員 **小島 順彦 氏**
(三菱商事株式会社 取締役会長)



今、日本企業のビジネスモデルそのものがだんだんと変わりつつある時代になってきています。我が社もかつてはトレーディング・カンパニーと呼ばれておりましたが、今ではトレーディング・プロフィットは2~3割で、7~8割がインベストメント・プロフィットという状況です。我が社は90カ国に200のオフィスがあり、連結事業会社が全世界で600社ほどあることから

もわかるように、ビジネス自体がグローバル化してきており、ここへきてコーポレート・ガバナンスという言葉も、我が社にとって重要な言葉になってきました。このように社員全体がしっかりとコーポレート・ガバナンスを理解しなければならない時代になったと思っていたときに、今回の審査委員のお話をいただいた次第です。

審査委員という大変貴重な機会をいただき、学生の方も社会人の方も力作揃いで選考には苦労しましたが、私自身とても勉強になりました。これからますます日本企業はグローバル化していきます。その中で日本企業がしっかりとした存在感を示すためには、コーポレート・ガバナンスをグローバルな観点から考えていかなければならないと思います。その意味で、今回、入賞された素晴らしい論文に触れられたことに感謝申し上げます。

審査委員 **翁 百合氏**
(株式会社日本総合研究所 副理事長)



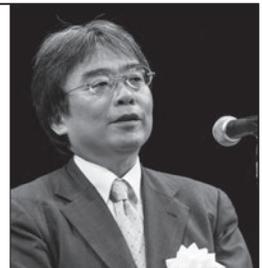
大変多くのご応募をいただき、また力作揃いで、審査も大変難しいものがございました。学生の方々はチャレンジングな姿勢や、またタイムリーな会社法改正をめぐる議論等についてよく勉強して論文を書かれていることに感心いたしました。

また、社会人の方々は、現在企業が直面している様々な問題、例えばグローバル化、社外取締役の役割、資本市場等との関係など、現実に即した非常に鋭い視点で、論旨を明快に展開されていて、私自身も大変勉強になりました。

力作ばかりで審査は難航いたしました。最終的には、特に現実への有益な提言が光った論文が入賞論文として選ばれたのではないかと感じております。

今回の審査を通じて、日本企業の将来は、コーポレート・ガバナンスが鍵を握っていること、そしてその中で監査役の役割はますます重要になってくるということを改めて実感いたしました。入賞者の方々、おめでとうございます。

審査委員 **小平 龍四郎氏**
(日本経済新聞社 編集委員兼論説委員)



日頃、新聞のコラム等で会社法の改正やコーポレート・ガバナンス等について書く機会が多いのですが、心がけていることが何点かあります。一つは、わかりやすく書くことです。コーポレート・ガバナンスはテクニカルで難しいトピックが多いため、ともすると技術的な制度解説に終

わってしまい、読み物としてつまらないものになってしまいます。そういったことを避けながら、面白くわかりやすく本質を伝えるような記事を書くよう心がけています。次に、具体的な事柄を書くということです。単なる制度紹介ではなく、事例の紹介を心がけています。そして最後に、コーポレート・ガバナンスの議論は、そもそも何のために議論をしているのかという問題意識を忘れないようにしています。今般、成長戦略の中でコーポレート・ガバナンスが組み入れられたように、例えばコーポレート・ガバナンスは企業の成長戦略として有効か、本当に不祥事抑止の効果があるのか、といった実証主義的な議論がもっと日本にあっても良いのではないかと思ひ、微力ながら実践しているところです。

今回はそういった観点から論文の審査をさせていただきました。審査委員というよりも一読者として、大変に面白い論文が多くありました。受賞者の皆様には今後改めて取材をお願いするかもしれませんが、その節はどうぞよろしくお願ひします。

審査委員 **太田 順司**
(公益社団法人日本監査役協会 会長)



今回の懸賞論文の募集にあたって、企業の健全な成長に役立つコーポレート・ガバナンスのあり方を問う、ということテーマに据えたのは、我が国におけるコーポレート・ガバナンスに関する多くの論点の中でも、特に企業の成長にこだわる必要性を強く感じていたからにほかなりません。

学生の部で最優秀賞を受賞された井上様の論文は、改正会社法により、機関設計が従来の2択制から3択制に変わることの問題点を明確に論じられており、監査等委員会設置会社への統一という主張の論理性に課題は残るものの、現行制度に対する問題点の解析の正確さが評価の大きなポイントだったと思います。なお、監査等委員会設置会社への統一との結論は、当協会の見解ではないことを念のため申し添えます。

社会人・一般の部で最優秀賞を受賞された安藤様の論文は、社外取締役が、企業価値の向上のために果たすべき役割は何か、ということに着目し、実務経験に裏打ちされた指摘をされた点が非常に興味深かったと言えます。こうした指摘は多くの企業にとっても参考事例となると思いますので、今後の実務活動を通じて、ベスト・プラクティスに仕上がっていくことを願っています。

最優秀論文（社会人・一般の部）

コスモ石油株式会社 常勤監査役 **安藤 弘一 氏**

日本監査役協会設立40周年記念懸賞論文において、最優秀論文を受賞させていただきました。私の10年を超える監査役人生の中で、これ以上の喜びはありません。協会の40周年を祝すとともに、懸賞論文の企画から審査までの間、ご関係いただいた全ての方に先ずもって厚く御礼申し上げます。

企業統治の新たな転換期を迎えるにあたって、論文では、“社外取締役を含めた企業統治のベストプラクティス”を提示いたしました。「実務に携わる者がベストプラクティスの策定に積極的に貢献しなければならない」。これが日本監査役協会に育てていただいた恩返しであると思えました。ただ自らの経験不足は否めません。ベストプラクティスの提示は単なるたまたか台に過ぎません。皆様の忌憚のないご意見を頂戴し、内容の一層の充実に励みたいと決意を新たにしています。有難うございました。



最優秀論文（学生の部）

早稲田大学 商学部 四年 **井上 隆信 氏**

私がこのような賞を貰えるとは微塵も思ってもいませんでした。正直な話、こういった懸賞論文に応募したこと自体が初めてで、初めてなのに最優秀賞という名誉ある賞に選ばれて非常に戸惑っている反面、大変うれしくも思っています。今回論文を書く経緯は、偶然にも応募があることを知り、学生の内にこのような論文を書いてみるのも経験だなという単純な思いからでした。しかし、書くからには真剣に取り組み、そして取り組んでみるとこのテーマは非常に難しいテーマであることに気付かされました。

最後に、この論文を書くに至って、協力して頂いたゼミの先生や、論文に煮詰まった時に気分転換に付き合ってくれた友達にこの場を借りて感謝の気持ちを伝えたいと思います。本当にありがとうございました。



佳作（社会人・一般の部）

大阪ガス株式会社 監査役室長 柳 伸之介 氏

一昨年、大学紀要に特定テーマの会社法関係の論文を寄稿させていただいた時の準備過程において、もっと全般的かつ根本的な我が国のコーポレート・ガバナンスに関する意見を整理して書きたいものだと考えていましたところ、この度、日本監査役協会からこのような機会を得て個人の論考を公表させていただいたこと、大変ありがたく感謝しています。

我が国の監査役制度は企業文化や伝統に適合した基本的には優れた制度であると常々思っています。二元論的議論や枠組み議論に追われて本質への視点が疎かにならないようにという理念が本稿の根底にあります。今後も企業実務を通じて、より良いガバナンスや内部統制のあり方について思考、検討していきたいものです。



佳作（社会人・一般の部）

クロウホーワス・グローバルリスクコンサルティング株式会社
代表取締役社長 毛利 正人 氏

40周年という節目における荣誉ある賞を頂き、たいへん光栄に存じます。私は日常、日本企業の海外子会社に対する内部監査の支援、リスクマネジメントなどのプロジェクトに従事しています。業務を通じ、今後ますますグローバル化する日本企業は、海外においてリスクを回避し企業価値を高める経営を行う必要があります、その活動を昨今増加している外国法人株主を含む、株主全体に明確に説明することができるコーポレート・ガバナンスの体制が求められていると実感しています。このような問題意識から本論文を執筆いたしました。

今後は、平成26年会社法改正において選択可能となる監査等委員会設置会社におけるあるべき実務の姿、監査役会設置会社における実務との相違点などについて、より研究を深めていきたいと考えています。この度は、荣誉ある賞を頂き誠に有難うございました。



佳作（社会人・一般の部）

株式会社UMNファーマ 常勤監査役 **高木 淳一 氏**

本論文は「監査役制度問題研究会中間報告書」（本年2月公表）を基盤としています。常勤監査役として5年、それ以前の30年に亘るファイナンスを中心とした職務経験を通じて学んだこと、常にかけていたことを総括しました。力点は過去の制度設計上の経緯より現状及び将来に、前提は社会システムとして為替市場を介したグローバル市場経済を、今後の課題は価値創造に資する「ジャッジ」の発掘であると考えています。

今日までお世話になった多くの方々、なかでも礎石となる数々の貴重な経験と手厚い教育をいただいた現パナソニック（株）及びこの度の機会を与えていただいた日本監査役協会の関係の皆様に、あらためて心より篤く御礼申し上げます。



佳作（学生の部）

東京理科大学 経営学部経営学科 三年

白石 彩華 氏／内堀 佑梨菜 氏

はじめに、今回の論文が佳作に選ばれましたこと、大変嬉しく思います。

今まで監査について考えたことがあまりなかったのですが、今回の懸賞論文に応募させていただくことによって様々な監査体制について知ることが出来ました。日本企業が今衰退しているということで今回はどのようにして日本企業は復活を遂げることができるのかということに重点を置き、私たちの考えを述べさせていただきました。

コーポレート・ガバナンスが復活の鍵を握るということですが、日本内で不正が多発している昨今、まさに監査業務に携わる方々の取り組みによって日本の業績は良い方に変化すると考えられます。

末尾になりましたが、これからの監査業務に携わる皆様のさらなる活躍を祈願させていただきます。此度は、本当にありがとうございました。

